

ガリー船・作品言語

＊

この長ったらしい名称をもつ寄稿誌は来春までに三号を刊行して終了するという限定性をもって誕生する。尖鋭的なことばと形態とをもった詩篇は能う限り登場するであろう。

ガリー船は満載のことばによって美事に沈没するであろう。シャルル・ノディエの述べるように「こうした性格はまさしく夢のそれなのである」（「スマラ」の序、秋山和夫訳）

＊

「フネ」という略称はここでは古代ガリー船のことでありまして、作品言語の冒険行を「誌」という乗物を仮りて、右に行くやら左へ流されるやら空を翔けるやら地の底に潜るやら知れず、大いに自家航海を満喫しようとの意気地からでたものでございます。どうもちんまりした詩人の多い中でこんなこととして

みるのも粋じゃありませんか。このフネ、ヤケに長い船名をもつとしてもただ気障というだけではありませぬ。人に格がありますように本に本格がございまして、その本格が膨張宇宙のように無限の果てにあるという訳でございます。イエ／＼、エス・エフのお話しじゃありません。えっ、では何でガリー船かとお尋ねになりますか。別にガリー船書込んで、なんていうエネルギー主義だけではございやせん。ノアの箱舟ならば神サン任せで、へ、結構なことでございますよ、こっちの方は手前で漕がにゃならない。船乗りどもが好き放題に櫓でばしゃばしゃ水を掛け合いつこしたりのア斐性なしばかりでもフネはよろよろ動くんですから、ことばのカクもてエしたものか。ことばは隠して尻隠さず、イエ、尻どころか貧乏の所帯の色気なんかのない睡言までも露わになさる人品卑しい方々より、へえなんとか人格までよろしく見えるようで。

*

寄稿誌などというものは詰まるところ作家の数だけの詩集にならねばならないといいつつ、冒險的な意気とその上でのポルテージといったことを中心に、小生の狭い識見でこのような本を編んだのですが、生まれ出て初めての謀み及び編集とはいえ、出来不出来に関する厳しいご批判は大いに頂戴する所存にございます。

次号の原稿締切は十月末です。広く寄稿を願う次第ですが、掲載の基準とは何よりも冒險的実験的なものであるということで、他は二の次となります。採否等のお問い合わせには可能な限り応じたいと思います。送付先は拙宅まで。

(紙田)

地獄第七界に君臨する大王は地上に顕現し人体宇宙の中樞に大洪水を齎すであろうか

創刊号 フネ

編集発行人 紙田 彰

東京都杉並区梅里二ノ十二ノ十五

電話(〇三)三三三二一五八一三

印刷所 武蔵野タイプ

印刷日 昭和五十年九月十日

発行日 昭和五〇年九月十五日

頒価 五〇〇円